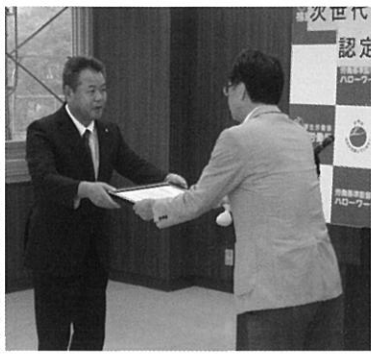


職員の子育て積極支援 脳神経疾患研究所「くるみん認定」受ける

総合南東北病院などを運営する郡山市の(二財)脳神経疾患研究所(渡邊一夫理事長)は、「子育てサポート企業」として次世代育成支援

対策推進法に基づき厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を受けました。8月29日(水)に福島労働局より認定通知書が交付されました。

森戸局長から認定通知書の交付を受ける寺西管理局长(左)



くるみん認定は、従業員の子育て支援に積極的に取り組んでいる企業を認定する制度。行動計画に定めた目標を達成するなどの一定の要件を満たした企業・事業所の

みが認定されます。南東北グループでは平成24年度に認定された医療法人三成会(須賀川市)に次ぐ認定取得となります。

脳神経疾患研究所は、女性よりもとり男性の育児休業も促進。さらに働き方の見直しを図り時間外労働の大幅削減を実現したことが評価されました。

認定通知書の交付式は福島市の福島合同庁舎で行われ、福島労働局の森戸和美局長から同研究所の寺西仁法人本部管理局长に手渡されました。

にぎやか夏まつり 歌や踊り：花火も

南東北福祉センター

第20回総合南東北福祉センターまつりは8月18日(土)、郡山市日和田町の同センター駐車場の特設会場で開かれ、利用者さん、家族、地域住民らが楽しく交流しました。

会場には職員たちがボランティアの協力も得て、焼きそば、焼き鳥、かき氷などの模擬店やゲームコーナーを設営しました。ステージではチャリ

ディング「クラップス」や「西田こまち太鼓保存会」、「梅沢花笠踊り保存会」、ボランティア「紙ふうせん」、利用者さんたちのよさこいグループ「mellano 楽笑」が歌や踊り、太鼓などのパフォーマンスを繰り広げました。

会場には地域住民ら約800人が訪れ、イベントを楽しみました。クラップスのダンスでは、センターの職員や一般の来場者が飛び入り参加して大いに盛り上がりました。折りたたみ自転車などの豪華賞品が当たる抽選会もありました。

まつりのフィナーレは恒例の打ち上げ花火で、来場者は次々と夜空に上がる本格的な花火にしばし時を忘れて見とれていました。

こころの健康

ADHDでは①注意・集中の障害のため、不注意で気が散りやすく忘れ物が多く、②落ち着ががなく、③衝動性があり、場もわきまをえず思ったことをすぐ口に出したり、興味を引かれたことにすぐに手を出したりします。また、④段取りが苦手で、片付けができません。

このような障害は3〜5歳頃からはつきりみられるようになりませんが、親や教師が病気であることを認識していない場合、勝手にわがままな問題児と誤解され、

いつも叱られて「自分はダメな人間だ」と劣等感を抱いてしまう危険性があります。落ち着かず悪さをしたり、かっとなつてけんかしたり、すぐに注意・集中がそれて他のことに手を出したり、いろいろ問題行動はありますが、

ADHD(注意欠陥・多動性障害)

後でゆつくり言うて聞かせれば悪いことだと理解はできます。しかし、またすぐに同じ問題を起こしてしまいます。これは、本人の意志でも考えでもなく、制御機能に障害のある脳が勝手に指令して起こすのです。本人に責任はありません。

注意して問題行動を我慢させる指導方法の効果は弱く、かえって子供に圧力をかけていじけさせてしまう危険性があります。ブレーキのかかりが悪い脳そのものを治療することが根本的な治療法です。現在、AD

HDに対する治療薬は3種類ありますが、治療薬を服用することで、見違えるほど落ち着き、別人のように見えてきます。

十代後半で脳は成熟し、大人の脳になります。脳が成熟するに従って落ち着きのなさ、衝動性はかなり改善し

ていきます。しかし、注意・集中の障害と段取りの悪さはあまり改善せず、一生持續していきます。大人になつて仕事を始めると、「指示したことをすぐに忘れ、ミスをする」「仕事の覚えが悪い」「自分で考えて段取り良く仕事を進められない」「一度に複数の仕事を並行して要領良くできない」などの問題に直面します。このような障害に対してもADHDの治療薬は一定の効果を発揮しますが、それに加えて自分に合った仕事、環境を選択していく必要があります。(総合南東北病院 精神神経センター長・渡邊義文)



息の合った演奏を披露する西田こまち太鼓保存会